

― 全道の漁村に先駆けて勉強会 ―

漁港の有効利用を官民連携で考える

漁港法改正を町の活性化のチャンスに！

昨年5月成立の漁港法改正を生かして、今後の漁港とその背後集落の活性化の方策を、農業・漁業・商工観光業の違いを越えて共に考える積丹地域マリナビジョン検討協議会（会長・松井町長）と町地域活性化協議会（代表・馬場商工会長）主催の「海業の取組を考える勉強会」が1月30日、総合文化センターで行われ、同協議会の構成団体や地域おこし協力隊のほか、国・道の漁港行政幹部職員、報道機関など約40人が参加しました。

漁港の有効活用を

町の活性化に生かそう！

「積丹町は、人口減少や高齢化の進行による活力の低下が加速し、漁業を取り巻く情勢も著しく変化している。そんな厳しい時代からこそ町が一つになり、地域の活性化にどう取り組んでいくか、漁港という地域資源をこれからどう生かしていくか、官民連携して考えていくことが急がれる。」と松井町長が開会の挨拶で訴えました。

漁港法の規制緩和で漁港・

漁村のにぎわいづくりを！

道内各地の漁村地域に先駆けて行われた勉強会では、水産庁



水産庁 漁港漁場整備部計画課
北川 俊一郎 災害査定官

漁港漁場整備部計画課海業推進制度検討チームの北川俊一郎災害査定官から、『海業の推進施策』についての講演が、岩井宏文氏（㈱積丹スピリット代表取締役）からは『民間事業者視点からの海業への提案』について提言をいただきました。

北川災害査定官は、海業の振興がもたらす水産業への効果や全国の漁港の活用取組事例のほか、魚を買う『モノ消費』から魚を使って体験する『コト消費』へ消費者ニーズが変化していることなど、水産物の消費傾向について紹介。

「漁港は漁場に近く水揚げの

根拠地のため、鮮度の高い水産物や漁業体験など水産物の『コト消費』の場として大きなポテンシャルがある。漁港は静穏な水域と事業用地が確保されているなど、漁港・漁村地域のにぎわいを展開する上で最適だ。」と話されました。

ポテンシャルの最大化と

積丹らしい地域づくりを！

岩井氏は、新たな産業基盤として、ウニ殻を活用した藻場造成やブルーカーボンの推進、ウニから始まる新たな食業態の開発、ウニの体験施設整備の構想（海の学び・遊びの空間）につ

いて提言。

「もともと漁村にあるポテンシャルをどう最大化するかを考えていくことが重要。新しい産業の形成には、多様な事業者が参加する取り組みが積丹らしい地域づくりの形。」と提案しました。

また、町農林水産課の水鳥純雄水産業技術指導員は、ウニ殻を活用した循環型藻場造成『積丹方式』の取り組みを、積丹しおかげ牧場を運営する㈱流山の宮本英樹代表取締役は、ウニ殻を肥料にした養殖コンブを羊に給餌する取り組みを、町域おこし協力隊の小山彩由里隊長は、海での学びや遊びを体験する海森学校についてそれぞれの事例発表をしました。

国や道の漁港行政職員からは、「積丹の取り組みは、すでに全国の海業振興の先進地だ。今後の取り組みも応援したい。」との激励がありました。

町では、美国漁港ほか6港（8地区）の高度な活用に向けて、町内の基幹産業団体や積丹応援団と力を合わせ取り組んでいくことにしています。

積丹ブルーの資源豊かな海を共に残したい

同日、㈱積丹スピリット（岩井宏文代表取締役）は、持続可能なウニ漁業の振興に取り組み町内の若手漁業者グループに対し、昨年末までに販売した積丹ブルージン3年半分の売り上げの一部、73万9,400円を東しゃたん漁業協同組合（茂木隆文代表理事組合長）を通じて寄付しました。



▶ 岩井代表取締役（左）から目録を受け取る白濱漁協専務理事（右）

～町民の「医療」と「健康」を守る町立国保診療所～

令和5年度
第2弾

“医療機器” 4台配備完了!



▲上部消化管内視鏡（胃カメラ）と平田医師

令和5年度医療機器整備事業計画により、9月末までに、『超音波画像診断装置（エコー検査機）』と『電子カルテシステム』の配備が完了（広報11月号掲載）。残り2つの医療機器も配備しましたので紹介します。

上部消化管内視鏡（胃カメラ）

胃カメラは細長いホース状の機械で、先端に付くビデオカメラを使い胃の中を観察します。そのため、胃バリウムで発見できないような小さい病変でも見つけることができます。

当院に導入した胃カメラは、鼻から挿入するタイプです。検査前には鼻に麻酔をかけ、内視鏡に潤滑ゼリーを塗り、滑り込ませるように挿入します。

入れます。鼻がツンとするような軽い痛みがあるかもしれませんが、喉を通る際に起きやすい吐き気は、口から挿入するタイプよりもかなり軽減されます。

検査中はお話しすることが可能ですし、検査時間も10分程度です。胃痛や胸やけがある方、黒い便（タール便）が出たことがある方、喫煙習慣のある方などは、一度この検査をおすすめします。

また、胃がんはかなり進行するまで症状が出ず、進行するのが早いがんです。胃がんの早期発見のためには1〜2年ごとの胃カメラが推奨されています。

検査を希望される方は、ご遠慮なく診療所までご相談ください。



血液等検査装置

これまで血液検査はすべて町外の検査会社に依頼していましたが、検査装置を導入したことで、院内でも検査ができるようになり、時間差なく体の状態を調べられます。

受診時の待ち時間が長くなってしまうのが難点ではありますが、今まさに体調不良の場合、あるいはその場で薬の調整が必要な場合などには、院内でも血液検査を行えるのは大きな利点になります。

急性疾患や糖尿病患者を診るうえで必須といえる装置

患者数の状況

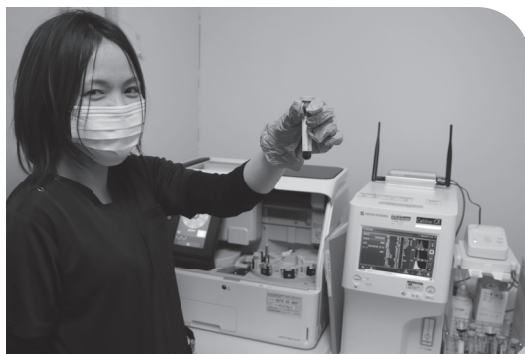
①上部消化管内視鏡（胃カメラ）検査
R6.1月末日現在・・・17人

②外来患者数の推移

基準日	患者数	前年比
令和6.1月末	4,513人	1,157人
令和5.1月末	3,356人	▲154人
令和4.1月末	3,510人	—

～もっと「簡単」「便利」に～
マイナンバーカードを
診療所でも使ってみよう

マイナンバーカードの保険証利用には
さまざまなメリットがあります!



です。
皆さまの健康維持にお役
立ててください。